

北海道大学総合博物館
常設展
2021年11月
リニューアル



国境観光

内なるボーダーを求めて

閉ざされた空間で生み出す
境界を越えて向こう側と繋がる
ボーダーツーリズムの様々な
かたちと可能性を考える

AMAMI ISLANDS

知られざる境界のしま・奄美

CHINA-RUSSIA BORDER TRAVELOGUE

中露国境紀行

EVOLVING BORDER TOURISM

進化するボーダーツーリズム

PHOTO EXHIBITION

斉藤マサヨシ 写真展

THE 10TH ANNIVERSARY OF THE JAPAN INTERNATIONAL BORDER STUDIES NETWORK (JIBSN)

境界地域研究ネットワーク JAPAN 設立 10 周年

主催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット (UBRJ)

会場：北海道大学総合博物館 2 階 スラブ・ユーラシア研究センター UBRJ ブース *** 入場無料**
* 月曜休館 (祝日の場合は翌日休館)、臨時休館あり

時間：10:00 ~ 17:00

協力

NPO 法人国境地域研究センター (JCBS) / 境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) / 人間文化研究機構北東アジア地域研究北大スラ研拠点 (NoA-SRC) / 奄美市立奄美博物館 / 南海日日新聞社 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター / 中村瑞希 (歌手) / 内山初美 (あまみ〜る)

国境観光

の様々なかたちと
可能性を考える

PHOTO EXHIBITION

斉藤マサヨシ 写真展



稚内在住の国境カメラマン、斉藤マサヨシによる写真展「ボーダーツーリズムの魅力：端っこから始まる旅2021」を開催中。第一弾は「北海道稚内からサハリンへ」をお届けします。

これまでこのブースでは「国境観光」と称して、国の「端っこ」や、外と内をつなぐ旅を主に紹介してきました。しかしながら、歴史を振り返ると必ずしも現在の「端っこ」が国境(こっきょう)であったわけではなく、空間がかたちづくられるプロセスのなかでは、さまざまな地域が国境(くにぎかい)としての性格を持ってきたことに気づきます。そして我が国においては「奄美」ほど境界性が強く、多様性を帯びている場所はないように思います。今回の新展示はそのような「知られざる奄美」に軸に構成されています。

日本の「端っこ」の自治体を結んだ境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) の設立10周年記念展示、写真家・斉藤マサヨシさんの「ボーダーツーリズムの魅力：端っこから始まる旅」やそのほかの展示とともに楽しみください。

岩下 明裕 (UBRJ 代表)

AMAMI ISLANDS

知られざる境界のしま・奄美

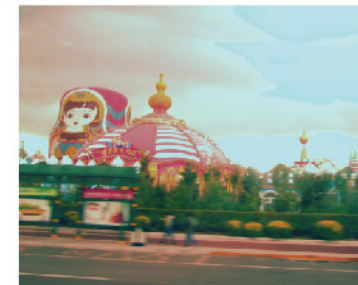


鹿児島から那覇へ向かう58号線。この海の国道は種子島と奄美大島で地上を走ります。薩摩と琉球の狭間で揺れ続けてた奄美のいまを、11月に刊行された同タイトルのブックレット8号からお届けします。アマミノクロウサギの剥製、手のひら大の夜光貝、歴史ある耐火煉瓦、繊細な模様が美しい本場大島紬の着物も必見です。

写真：アマミノクロウサギ (剥製) 奄美市立奄美博物館所蔵

CHINA-RUSSIA BORDER TRAVELOGUE

中露国境紀行



日本発で中国とロシアの国境地域を跨ぐユニークな旅。第3弾はアムール川越え。中国の黒河からロシアのブラゴベシチェンスクスクへ国境を渡河しました。第4弾はどこまでも続くモンゴル草原。変わらぬ風景のなかに両国のまちが溶け込んでいます。ところで中国はいま国境地域を「遊園地」として開発中。突如、出現した巨大マトリョーシカ…観光客向けのホテルです。

EVOLVING BORDER TOURISM

進化するボーダーツーリズム

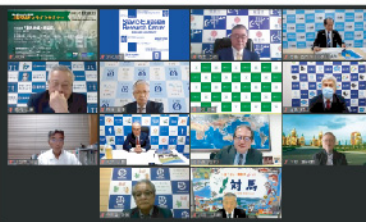


COVID19により、観光事業は軒並みダウン。そのなかで脚光を浴び始めているのが、マイクロボーダーツーリズム。近場を車などで廻る、自分たちの足元を見つめなおす旅。一つの都道府県のなかにも様々な境界があります。それを体感して非日常を楽しみませんか。国境を超えない国境観光! これもボーダーツーリズム。

写真撮影：HELICAM (株)

THE 10TH ANNIVERSARY OF THE JAPAN INTERNATIONAL BORDER STUDIES NETWORK (JIBSN)

境界地域研究ネットワーク JAPAN 設立 10 周年



日本の境界地域の自治体を結ぶ JIBSN が設立されて10年。その活動の歴史を振り返ります。

五島の伝統「ばらもん風」や礼文と与那国の最北端と最西端[国境離島]の絆が生んだ祝い酒「波声」など各地の自慢の名産品もご紹介しています。また博物館受付にてツシマヤマメコノポストカードとステッカーを配布しています(なくなり次第終了)。

ACCESS

アクセス

北海道大学総合博物館 2 階
スラブ・ユーラシア研究センター UBRJ ブース
札幌市北区北10条西8丁目 (北海道大学キャンパス内)
電話 011-706-2658 <http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

CONTACT

お問い合わせ

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
北海道札幌市北区北9条西7丁目
TEL : 011-706-2388 FAX : 011-706-4952



最新情報はホームページをご覧ください
<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrij/>

